

道路空間を活用したまちの賑わい 創出に向けた社会実験

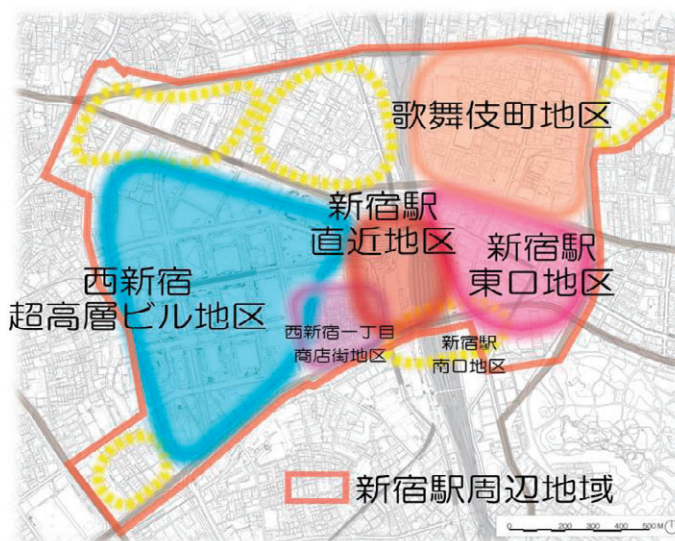
新宿区 都市計画部 新宿駅周辺整備担当課

1. 新宿駅周辺地域

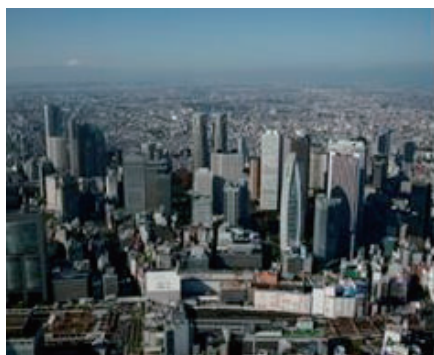
(1) 新宿駅周辺地域の概況

新宿駅周辺地域では、世界一の乗降客数を誇る巨大ターミナル「新宿駅」を囲むように、百貨店や老舗・名店等の商業が集積している新宿駅東口地区や、日本有数の業務の集積を誇る西新宿の超高層ビル地区、世界に知られた飲食・娯楽街の歌舞伎町地区等の個性を持った多様なまちが隣接して存在し、多くの人々が行き交っている。

こうした、様々な顔を持つ多様性と各地区が行き交う人々が、新宿のまちの原動力となっている。



新宿駅周辺地域の概況



西新宿超高層ビル地区



歌舞伎町地区



新宿駅東口地区

(2) 新宿駅周辺地域の目指す将来像

各地区の特色ある取組みを包含し、地元と連携した地域全体のまちづくりを行うため、平成28年3月に、概ね20年後の将来像を描いた「新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン」を策定した。

新宿駅直近地区、新宿中央公園、新宿御苑といった3つの拠点と、拠点をつなぐ賑わい交流軸・文化発信軸でまちの骨格を形成し、その拠点・軸を基点として、多様なアクティビティや地区内・地区間の回遊が展開され、まち全体に人々を呼び込むことを目指している。



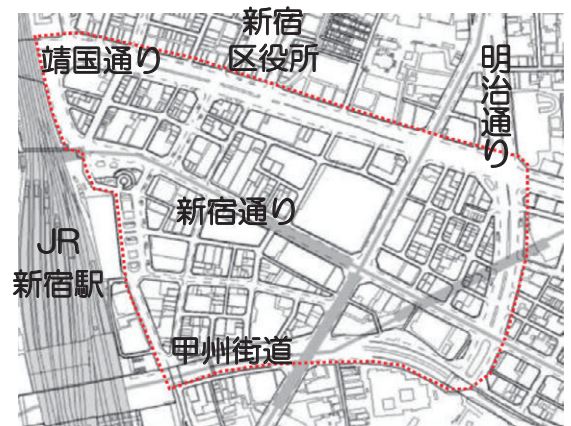
新宿駅周辺地域の目指す将来像

2. 新宿駅東口地区のまちづくり

(1) 新宿駅東口地区の概況

新宿駅東口地区は、甲州街道（国道20号）、靖国通り、明治通り、新宿駅で囲まれた商業地域であり、百貨店や家電量販店等の物販をはじめ、多くの飲食店を有する日本有数の商業・サービス業の集積地である。

当該地域に存在する建築物は40～50年を経過したものが多く、建物更新が促進されるべき地区であるが、狭小敷地により賑わいを創出している地区でもあり、大街区化を行わずに建物を更新しつつ、歩行者環境の改善や賑わい創出が必要である。



新宿駅東口地区

(2) 新宿駅東口地区の取組み

新宿駅東口地区では、地元組織である「新宿 EAST 推進協議会」と新宿区が協働でまちづくりを進めており、平成25年には、駐車場の附置義務について、地区の特性を踏まえた駐車場地域ルールを策定し、建物更新を促進するとともに、歩行者を主体としたまちづくりを推進している。

新宿駅東口地区のシンボルロードである新宿通りは、「新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン」において、「賑わい交流軸 EAST」と位置付けており、日祭日に歩行者天国を実施している。また、地区内の街路においても平日15時～翌5時まで歩行者専用規制が実施されている路線が多く存在している。

このような背景のもと、新宿通りから周辺の魅力ある商業施設への歩行者・来街者の滲み出しや回遊性の向上、まち全体の賑わい創出や魅力の向上を図るため、安全で快適に歩くことができる新宿通りモータリゼーションが必要である。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時には、国内外からの多数の観光客が予想されるため、新宿駅東口地区のまちづくりでは、新宿通りを核として、まち全体を魅力ある歩行者優先空間とすることを目指している。



賑わい交流軸 EAST のイメージ

(3) 歩行者優先のまちづくりに向けた課題

新宿駅東口地区では、以下のような路上駐車や路上荷さばき等の課題が見られる。

- 日常的に路上荷さばきが頻繁に行われており、歩行者環境が阻害されている。
- 違法路上駐車やパーキング・メーターでの制限時間を超える長時間駐車が発生している。
- 駐車場所を探すうろつき車両の頻発により、交通混雑や歩行者の安全性が低下している。

これらの課題の解決に向けて、地元を含めた関係機関等と連携して、検討していくこととなった。



路上駐車による歩行者環境の阻害



違法路上駐車が発生



パーキングメーターの長時間駐車



うろつき車両による歩行者の安全性低下

(4) 新宿駅東口地区歩行者環境改善協議会の設立

平成 27 年 8 月、新宿通り及びその周辺の歩行者環境改善に向け、課題解決に取り組むことを目的とした「新宿駅東口地区歩行者環境改善協議会」を設置した。

この協議会では、有識者、地元組織、事業者及び関係行政機関等が連携し、荷さばき対策等の「歩行者環境の改善」、「歩行者空間の創出」、「道路空間を活用した賑わい創出」について、継続的かつ段階的

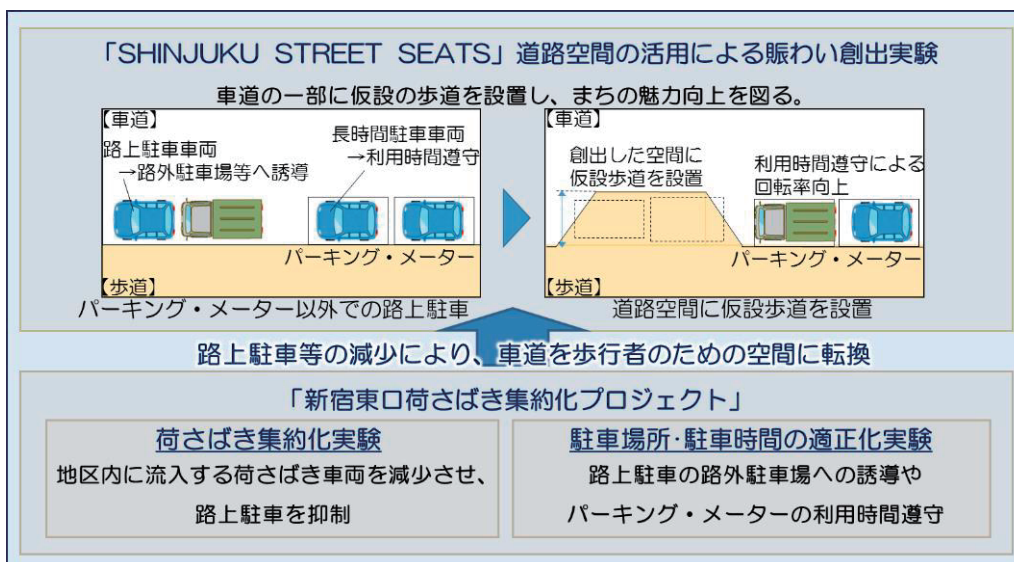
に社会実験等を実施し、課題等の検証に取り組んでいる。

さらに、平成 28 年 8 月には、「新宿 EAST 魅力あふれる街創り有志懇談会」が新宿 EAST 推進協議会の活動から生まれ、地元が主体となった荷さばき対策等への気運が高まり、社会実験に向けた実務レベルの具体的な検討と共に、将来的な荷さばき集約化システムの導入に向けた仕組みづくりの検討を始めている。

3. 社会実験の実施

(1) 社会実験の全体像

平成 29 年度の社会実験は、公共空間の利活用を図る「道路空間の活用による賑わい創出実験」、多頻度小口の白ナンバー物流の集約化を図る「荷さばき集約化実験」、路上駐車抑制やパーキング・メーターの適正利用を図る「駐車場所・駐車時間の適正化実験」の 3 つの実験によって構成している。荷さばき対策や路上駐車対策などの地域の交通課題に対応しながら、新宿通りの車道部分に歩行者空間を創出し、まち全体の賑わいに繋がる社会実験となっている。



社会実験の全体像

(2) 道路空間の活用による賑わい創出実験（Shinjuku Street Seats）

荷さばき対策や路上駐車対策により路上駐車を減らし、利用可能となる道路空間（車道）を確保したうえで、その車道の一部に仮設歩道（Shinjuku Street Seats）を設置する。

<実験の効果>

新宿通りに Shinjuku Street Seats を設置することにより以下のような効果を得る。

- 歩行者空間改善のモデルケース（道路修景やまちの魅力向上、歩行者環境改善）
- まちの賑わい創出（休憩や情報収集等による回遊性・滞在時間増加）
- 歩行者の溜まり空間の確保（混雑する歩道上での歩行以外の行為の実施場所の設置）
- 地元でのルールづくりへの合意形成（将来の維持管理方法の足掛かり）

<実験の方法>

平成 29 年 10 月 14 日（土）から平成 29 年 11 月 30 日（木）までの約 1 ヶ月半の期間で、新宿通りの車道部 2 箇所に Shinjuku Street Seats を設置した。

今回の社会実験では、休憩施設など地域の賑わい創出に資する取組みを実施した。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時の新宿通りモール化を見据え、外国人を含む観光客にも楽しんでいただける「地域の魅力スポットや新宿の歴史の紹介、」フォトスポットの設置、などを実施した。

また、社会実験中の Shinjuku Street Seats の管理について、「新宿 EAST 魅力あふれる街創り有志懇談会」のなかで管理ルールを作成し、地元の方々を中心に毎日の清掃等を実施した。将来的なエリアマネジメントを見据え、官民連携による新たな道路管理の仕組みづくりである。

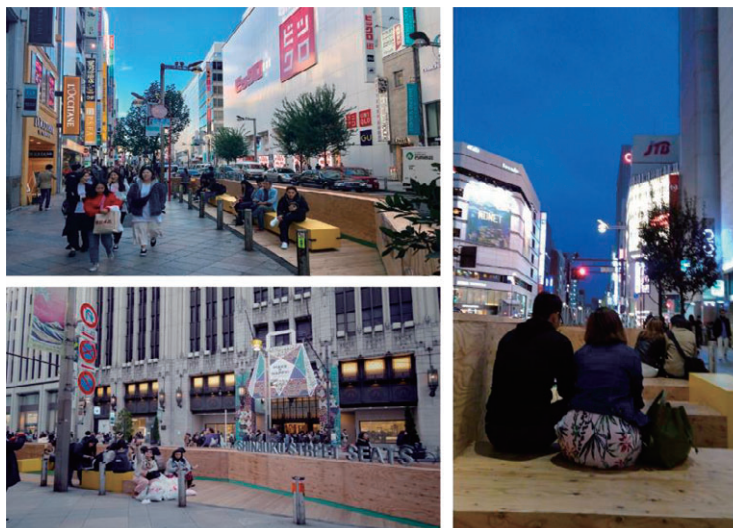


道路空間を活用した賑わい創出実験

<実験結果>

アンケート調査結果より、『座って休憩できるから良い』といった意見や『木目調のデザインが良い』という意見をいただいている。さらに、Shinjuku Street Seats を利用して『まちを巡りたい』、『滞在時間が伸びた』、『立ち寄りた目的が増えた』といったアンケート回答もあり、Shinjuku Street Seats の設置がまちの回遊性向上や滞在時間の増加に寄与すると考えられる。

Shinjuku Street Seats で実際に見られた行動種別も、待ち合わせ、スマートフォンの操作・通話、写真撮影、荷物整理・買い物袋を開ける、本・地図・リーフレットを見るなど多岐にわたる。特に、写真撮影について、今回の社会実験では、専用 HP や SNS (Facebook、Instagram) 等を活用し Shinjuku Street Seats を PR しており、利用者の SNS 投稿を通じて、さらに多くの方々に新宿の魅力を発信することができた。



SHINJUKU STREET SEATS の利用状況

(3) 荷さばき集約化実験（新宿東口荷さばき集約化プロジェクト）

地区内における多頻度小口の白ナンバー物流の荷物を集約する。地区外の1次デポで荷物を集約することで、地区内に流入する荷さばき車両を減らし、荷さばき路上駐車削減を図る。

<実験の効果>

荷さばき集約化実験を行うことにより以下のような効果を得る。

- 地区内における路上駐車削減
- 駐車場所探索時間の節減によるうろつき車両削減
- 荷さばき集約化システム導入に向けた地元合意形成
- 地元での荷さばきルールづくりへの合意形成

<実験の方法>

地区外の民間敷地等において、冷蔵・冷凍設備を備えた仮設の1次デポ（共同集配施設）を設置し、参加店舗の納入業者からの荷物をそこで受取り、荷物の集約化を行う。集約した荷物は、実験担当業者が地区内の2次デポ（集配施設）に車両で輸送し、2次デポからは台車（人力）で配達する。なお、2次デポは路外駐車場等を利用している。

平成29年度の荷さばき集約化実験では、これまでの品目（野菜や雑貨等）に加え、帰り荷を伴う品目（酒類・おしぼり）を追加し、取扱品目の拡大を図った。



荷さばき集約化のイメージ

<実験結果>

社会実験に参加した地元店舗からは、「地元まちづくりに協力できた」というアンケート回答があり、納入業者からは「店先や街路での路上駐車が不要になった」というアンケート回答をいただいている。

今後、継続・発展させていくためには、新宿東口のまち全体でこの取組みのメリットを共有し、持続可能な実施体制の構築、荷さばき集約化システムの構築が必要となってくるが、新宿駅東口地区では、参加店舗や参加納入業者の募集、1次デポ・2次デポの候補地選定等を地元の「新宿 EAST 魅力あふれ

る街創り有志懇談会」や商店街振興組合等が主体となって荷さばき集約化に取り組んでおり、地元の取り組み体制は整っている。



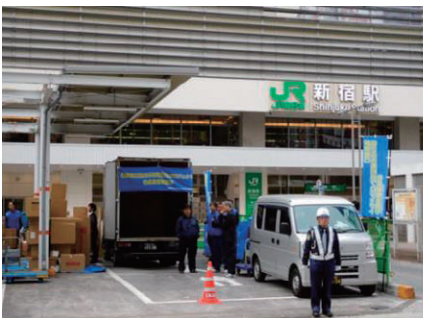
1次デポ荷物受取状況



1次デポ荷物の集約状況



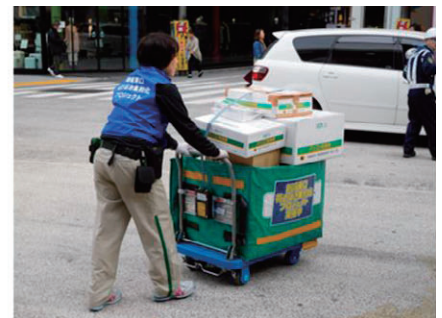
1次デポから2次デポへ輸送



2次デポ（新宿駅東口広場内）



2次デポ荷物の集約状況



2次デポから各店舗へ配達状況

(4) 駐車場所・駐車時間の適正化実験（新宿東口荷さばき集約化プロジェクト）

新宿通り、中央通り、ムサシノ通りを対象に、実験実施期間中にドライバーへの声掛けを行い、路外駐車場への誘導、パーキング・メーターの利用時間の遵守により、まちの路上駐車抑制を行った。

<実験の効果>

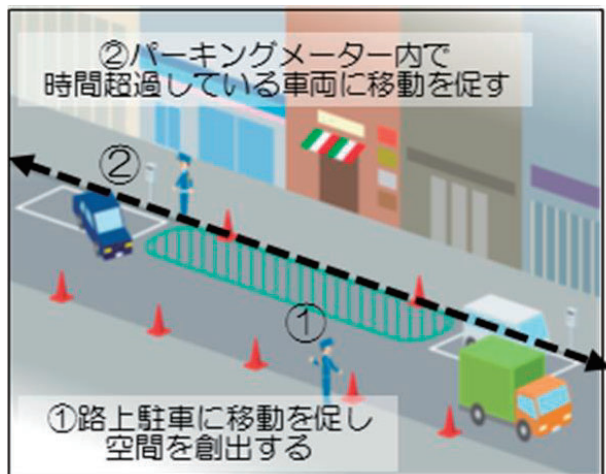
荷さばき集約化実験による荷さばき車両対策だけでなく、新宿東口のまち全体で、路上駐車抑制の啓発活動を行うことにより、歩行者環境改善のモデルケースとして、以下の効果が期待できる。

- 荷さばき集約化への参加意欲の向上
- パーキング・メーターの長時間駐車の削減
- パーキング・メーター回転率の向上
- 地元ルール（啓発活動）への合意形成
- 道路修景や街並みイメージの向上
- 歩行者空間の創出

<実験の方法>

実験実施期間中は、誘導員の配置・巡回や駐車抑制サインの設置により、違法路上駐車に対して、適正な駐車場所（路外駐車場またはパーキング・メーター）への移動を促す。合わせてパーキング・メーターの適正な利用も促す。

さらに、実験期間中の週1回、地元主体で啓発活動（声掛け）を実施した。



駐車場所・駐車時間の適正化実験のイメージ

<実験結果>

新宿通りでは、貨物車用のパーキング・メーターに一般車が駐車している状況が多く見られた。声掛けにより誘導しながら、近隣の路外駐車をうまく活用していくことができれば、荷さばき集約化と合わせて、より効果的に路上駐車を減らすことができる。

また、今回の実験でチラシを配りながら声掛けを行っているところ、新宿東口荷さばき集約化プロジェクトに興味を持ち、質問をしてくるドライバーが出てきている。さらに誘導員が声をかける前に車両を移動させる車両等も見られた。



駐車場所・駐車時間の適正化実験の実施状況

4. 今後の取組み

(1) 社会実験により得られた効果と課題

新宿駅東口地区においては、これまでに、荷さばき集約化、宅配便物流の集約化、路上駐車の適正化を実施し、荷さばきの効率化、路上駐車台数の減少、物流コストの縮減、環境の改善、パーキング・メーターの利用適正化を実現することができた。さらに、路上駐車が減少した道路空間を活用し賑わいを創出することにより、来街者を増やし、新宿東口のまち全体の賑わい創出に繋がることを示した。

今後の課題としては、賑わい創出の仕掛け、収益事業の導入検討、1次デポ・2次デポの確保、参加者数の拡大、取扱い荷物の拡大、地元の荷さばきルール検討が重要であることも明らかとなった。

将来的なエリアマネジメントの仕組みづくりとして、持続可能な実施体制の構築、荷さばき集約化の

システムの構築などが必要である。

(2) 新宿駅東口地区のまちづくり ～歩行者を主役に！～

2020年には新宿駅東西自由通路が供用開始となり、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、国内外からの更なる来街者が新宿のまちを訪れることが想定される。このため、「新宿駅東口地区歩行者環境改善協議会」は、東京オリンピック・パラリンピック開催期間中に、シンボルロードである新宿通りを魅力ある歩行者優先の道路としていく目標を定めている。

今後、道路空間の活用による賑わい創出、荷さばきルールや荷さばき集約化の拡充、新宿通りにおける歩行者空間の拡充などを社会実験として進めていく。

新宿通りをはじめとする各通りが、歩きやすくなり、老舗や最新ブランドの店舗が並ぶ広大なショッピングエリアが連なることで、多くの来街者や観光客に『新宿』を歩くことの楽しさを提供していく。

5. 「賑わい都市・新宿」の実現を目指して ～未来に向かって、世界をあっと言わせよう！～

このような新宿駅東口地区の取組みをはじめとして、「新宿」が、国内のみならず、世界中から注目されるまちとして日本をリードするとともに、持続的に賑わい・発展し続けていくためには、新宿駅周辺地域の各地区が、それぞれの特徴を活かしながら、連携を一層強化し、調和のとれたまちづくりを推進していくことが重要である。そのため、各地区間の回遊性を高め、歩きやすく快適に過ごせる都市基盤や都市環境を充実させ、賑わいが区内全域へと波及し、「新宿」全体のブランド力を向上させ、誰もが愛着と誇りの持てるまちの実現に向けて取り組んでいく。